

# 農作物等の寒害及び雪害の被害防止に向けた技術対策

令和3年1月5日

福岡県農林水産部経営技術支援課

気象庁発表の「九州北部地方気象情報（令和3年1月4日16時02分）」によると、九州北部地方では、7日は低気圧が発達しながら日本海を東北東に進み、9日頃にかけて日本の上空に強い寒気が流れ込むため、日本付近は強い冬型の気圧配置となり、このため、九州北部地方では7日は海上を中心に大荒れとなり、9日頃にかけて大雪のおそれがあります。

つきましては、下記の事項等について指導をよろしく申し上げます。

なお、その他の対策については、「農業災害技術対策マニュアルと気象災害工夫事例集（平成17年3月）」を参考にして下さい。

また、農作業及び農地・農業用施設の見回りには気象情報を十分に確認し、人命を最優先に事故の防止を徹底するよう、併せて注意喚起をお願いします。

## 【施設】

- (1) 暖房機の点検を行い、稼働中に燃料切れが起こらないよう随時点検を行う。
- (2) 被覆フィルムの隙間、破損を点検し、補修を行う。
- (3) かん水施設は、管内の水を抜き、水栓を被覆資材で覆うなどの凍結防止対策を行っておく。特に、ポンプの凍結に注意する。
- (4) 強風が予想される場合は、フィルムの浮き上がり防止にマイカー線の増し締めと本数の追加、防風網での被覆を行う。ただし、降雪開始した場合は防風網を撤去する。
- (5) 大雪が予想される場合は、応急補強用の支柱、筋交いなどをあらかじめ用意しておき、降雪開始と同時に直ちに取り付ける。単棟ハウスでは中央部に木や竹で支柱を立てる。また、連棟ハウスでは谷部に雪が溜まり倒伏しやすいので谷部を補強する。
- (6) 暖房機がある場合は、降雪開始と同時に設定温度を高めて内カーテンを開き、屋根を暖めて雪の自然落下を促進させる。
- (7) 降雪し始めたらハウスの見回りを行い、早めに雪下ろしを行う。遅れるとビニルがゆるみ雪の滑落が困難になる。雪下ろしは両側から行う。
- (8) 谷やサイドの自動換気用巻き上げが凍結している状態で、急にハウス内温度が上昇した場合、自動換気装置が稼働し、無理に巻き上げようとしてモーターが故障したり、ビニルが破損したりするので、手動に切り替えておく。
- (9) 無加温ハウスの場合は、施設の気密性を高め、内カーテンを開放し、地熱の輻射によって室温の上昇とそれによる屋根雪の滑落を図る。

## 【果樹】

- (1) カンキツは、成熟期に達しているものは直ちに収穫する。低温に遭遇する回数が多いほど果実の苦みは増加する。また、時間の経過によりス上がりも発生する。寒害を受けた園では、収穫して追熟貯蔵を行い、選果・選別や出荷の際に十分留意し、被害果の出荷はしない。

樹体は寒冷紗、不織布等で寒風から保護し、落葉を軽減する。

- (2) 貯蔵中や追熟中のカンキツも低温障害を受けることがあるので、温度管理に注意する。
- (3) ピワは、房や枝を防寒資材で被覆する。
- (4) イチジクなど耐寒性の弱い樹種についてはワラや防寒用被覆資材等で主枝や主幹部を保護する。
- (5) 樹種を問わず幼木は耐寒性が劣るため、ワラや防寒用被覆資材で主幹部を中心に保護する。
- (6) 防鳥ネットは積雪により倒壊する恐れがあるため、ネットの片づけが終わっていない園では早急に除去する。
- (7) 積雪により枝が避けた場合は、欠損部で切除し保護剤を塗布する。主枝の分岐部など大枝が避けた場合はボルト止めする。
- (8) 寒害を受けた園では、今後、落葉や枝の枯れ込みが予想される。せん定程度は、落葉や枯れ込み状況に応じて調整する。

#### 【露地野菜】

- (1) 寒風害の対策として季節風の吹く風上や圃場周囲に防風ネット等を作る。
- (2) べたがけ資材などで保温する。
- (3) トンネル栽培では降雪し始めたら早めから除雪を行う。
- (4) 雪解け水の排水に努め、湿害に注意する。
- (5) 雪解け後は地上部病害について早期防除を徹底する。

#### 【畜産】

- (1) 中山間及び山間地の積雪量が多い地域は、水道や給水器の凍結防止に努める。
- (2) 寒風は家畜の体感温度を下げるため、寒風が直接家畜に当たらないようにカーテンや防風ネットを設置する。特に、幼畜は低温に弱いため、牛では敷料を厚くして哺育房の3方をコンパネ等で塞ぐ等、哺育温度に留意する。また、子豚や雛は給温器による温度確保を行う。